

文昌符

解説・効験・使用方法



正一道教団は漢代に成立したため、この符の構成には漢代の世界観である天・人・地の「三才」思想が反映され、上・中・下の三部に分けられる。

「文昌符」は学問成就と出世栄達を目的とする。この符は上・中・下の三部に分けられ、上部は星辰と自然の力を源とした法力と能力を示す。中部は文昌神と魁星各々の使者によって符を持つ者の智慧と運を向上させ、下部の「急急如律令」によって符の効験を即座にもたらしよう使者らに命じている。



自然の力

符の上部には「雨」(雨)、**山**、「日月星」(日月星)の複合字が描かれている。



雨は風雨・雪・雷電などの自然の力を表し、符が雷法の道法を用いていることを示す。雷法は南宋より広く行われた道法である。太上老君が祖天師に「邪を攝り正に帰し、人鬼を分別せよ。」と命じたことで風火雷電が天師の管轄下に置かれたとする言い伝えがあり、今日の天師が儀式の際に持つ「雷侯牌」は、天師が雷法を行使する権限を持つことを示している。



三山は龍虎山・閣皂山・茅山、すなわち江南三大符籙道派（正一・靈宝・上清）の祖庭を指す。南宋の嘉熙三年（1239）、理宗の勅命により三十五代天師が三山の符籙と諸々宮觀と道門の管理を担い、元の大徳八年（1304）、成宗の命により第三十八代天師が江南三大符籙道派の首領とされた。これにより三大符籙道派は正一道の管理下に入り、正一道天師は道教

界最高の地位が認められ、明代以後の正一道教団は道教教団全体を掌ることとなった。これらの史実から三山を描いた符は南宋時代以降に生まれたものと推測される。



日月星は日月星辰の自然の力を源とした符の能力を示す。古代より道教では人の命は星辰に属すると信じられており、自然の力と人の命との間には繋がりがあるとされる。



文昌神と魁星の使者

符の中部に描かれている「者」二字(者)は文昌神(文昌)と魁星(魁星)の使者を指す。

文昌星は道教占星術の一つである紫微斗数における学問・出世を掌る吉星とされ、古くは官吏登用試験である科挙の受験者から広く信仰を集めた。また、魁星は学問以外、すなわち医学・農業・工業・商業・音楽・芸術・芸能などの分野における成就を掌るとされる。

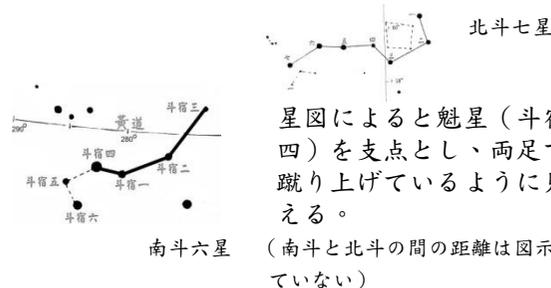
文昌とは星座の名称であり、『史記』天官書に、斗の魁の上にある箱型の六星を文昌宮とし、それぞれ上将・次将・貴相・司命・司中・司禄と名付けられているとある。文昌は六つの星から成った紫微垣に属する星座であり、北斗七星の上方に位置し、天庭の六部門もしくは官吏を表しているとされる。隋唐時代に科挙が始まったことで、人の功名や禄位を掌る文昌星の「司禄」の職能が特に重んじられた。



文昌神とは文昌帝君を指し、元々は中国四川省梓潼県の守護神で梓潼神と呼ばれていたが、唐・宋代に靈験を顕して戦場で朝廷を助けたことから勅令により封神された。宋代には科挙受験への靈験を大いに顕したことから、梓潼神信仰は四川省から全土へと広まっていった。道教では天帝が梓潼神に文昌府と人の出世を掌るよう命じたとされる。延佑三年(1316)、元の仁宗により「輔元開化文昌司祿宏仁帝君」として封じられたことから「文昌帝君」の呼称が大いに広まり、民間で学問と出世の神として信仰を集めるようになった。文昌帝君には「陰騭文」というお告げがあり、学問に励む人々への教化に用いられてきた。陰騭とは善行・徳行を黙々と励み行う陰徳を意味し、「吾一十七世に士大夫の身と為るも、未だ嘗て虐民の酷吏ならず。救人の難を救い、人の急を濟い、人の孤を憫れみ、人の過ちを容る。」と説く。符を持つ者はこの陰騭の精神を体得し実践することで、文昌帝君の加護を得ることができる。

魁星は二十八宿における「北方玄武七宿」の第一宿「斗宿」を指し、「斗宿四」とも呼ばれ、古名「天機星」の古名がある。斗宿は北斗七星と似た形をしており、北斗七星の南に位置することから俗に「南斗」ともいう。

この符では「魁星踢斗」の形式をとる。



魁は「鬼」が「斗(斗)」を蹴り上げた字形として描かれ、斗の二点は省略されることがある。

尸は数種類の変形が見られるものの「尸」の字を表し、出世と先祖の徳の間の関係を示す。民間では一般に先祖の徳が豊かであれば子孫は繁栄し、出世栄達し、徳を積んだ先祖になるという循環を期待する。

口口口 三つの口の字は上部の雨の字と共に靈(靈の旧字)の上半分を構成し、下半分の巫の字は描かない。符を持つ者に対して心の誠により靈験を得ることができると説く。

急急如律令

急急如律令(急急たること律令の如し)の「急急」は迅速の意、「如律令」は法律のように迅速に執行せよの意で、漢代の詔書あるいは檄文の結語に多く用いられた。道教教団は漢代に創設され、漢朝の典章制度を多く採り入れたことから、符も当時の公文書を模して「如律令」あるいは「急急如律令」と記し、符の効験を迅速に顕すよう指示している。



陽平治都功印・天師印

符の印章は非常に重要で、印章の無い、或いは誤った印章を用いた符に効験は無い。正一道教団が主に用いる印章は「陽平治都功印」と「天師印」で、共に祖天師の功績に由来する。

「治」は祖天師が正一道教団を創設した際に設けた教区を指し、当初は二十四節氣に

基づいて二十四の治が設けられ、後に二十八治へと拡大した。中でも陽平治は治の筆頭とされて正一道と天師の拠点となった。治は正一道の教区を示すと共に管理・秩序・文明の意味があり、『三洞珠囊』は『玄都律』を引用し、性・命・魂・神の属する場所とする。太上老君は祖天師に陽平治の統治を命じ、各治に教団幹部を「都功」として派遣した。

したがって、「陽平治都功」は陽平治の統治者である祖天師の職名であると共に、祖天師自身と宗教的権力の象徴でもある。符にこれらの印章を用いることで、天師が効験を付与したことを示している。

「文昌符」効験と使用方法

この符は持つ者に天賦の智慧と能力を発揮させ、学問と出世に関わる運勢を強める効験がある。文昌・魁星を崇敬する者の智慧と能力が向上し、天賦の才能を発揮し、運勢が高まることにより、学問の面では思考力・創造力が高まり受験に合格し、仕事の面では契約に成功し、昇進と出世栄達が実現される。

注意すべきは、符の主な能力は星辰と自然の力に根ざしており、人の命との関係がある。文昌・魁星への崇敬が疎かな者に対しての効験は比較的少ないうえ、先祖の祖徳と符を持つ者自身の福德による助けが必要とされる。家庭の中で親子・兄弟との間での慈・孝・友・恭を重んじ、善行を進んで行う者に対して効験をより大いに顕す。

書齋に貼る、もしくは携帯して使用する。符を使わなくなった時は金紙と共に焚く。

2023/4/6 版

正一嗣漢張天師府道教總會 第六十五代天師張意將



台北會址
台北市士林區中山北路六段175號2樓
TEL:02-28366519 FAX:02-28321627
立案字號: 台內團字第1100282049號

彰化教育總部暨道場
彰化縣芬園鄉彰南路五段888號
TEL:049-2511199 FAX:049-2511177
網址: www.cts65.org